

青年対策交流集会

報告者 全港湾塩竈支部塩竈分会
伊藤 広智

2月21日から23日まで青年対策交流集会に参加させて頂きました。

私は2回目の参加になりますが、去年とはまた違った全国の仲間たちが集まり有意義な時間を過ごせました。

最初に鈴木誠一委員長の挨拶があり、これまでの港湾の歴史のお話しなど聞かせて頂きました。

次に各地方活動報告の発表があり、エコキャップ集めなど塩竈分会でも取り入れていきたいと思う活動がありました。

中央本部オルグを各協定について松永書記長に講師をして頂きました。

36協定は、時間外・休日労働を合法的に行うための協定ですが、港湾労働の現場では船の入出港が天候や世界情勢に左右される作業の「待機」や「集中作業」が発生するといった特殊性があるため、現実には即した柔軟な運用が必要な業界であるということ、一方で長時間労働の常態化と特別条項の常用化、若手離れの要因などなっていないかと懸念も各班からの疑問が上げられました。

特に港湾は安全第一の職場であり、疲労の蓄積は重大災害に直結します。36協定は「労働時間確保の道具」ではなく安全を守るための歯止めであるべきだとお話し頂きました。

一方、産別協定は港湾という特殊産業を守るための協定で全国統一的な労働条件や港湾労働者の生活水準維持、無秩序な競争の抑制など大きな役割を果たしてきた歴史があり、これからは守る協定から未来をつくる協定へ変わっていくのかと感じました。

2日目千葉中執から東日本大震災の当時の職場の状況などにお話し頂きました。

私は当時学生だった為、いま自分が働いている職場がこんな悲惨な状況だったのかと身に染みて感じました。

まだ大丈夫という経験不則による初動の遅れ、作業継続を優先して避難判断が遅れるケースなど反省を生かして命を優先する判断力の徹底が大事になってくると思います。

夜の懇親会、ドッチボールなど全国の仲間たちと交流することができました。

横の繋がりが広くなり、全港湾の絆がまた深まった会になったと思います。参加させて頂きありがとうございました。機会があればまた参加させて頂きたいと思います。